



富田東小だより

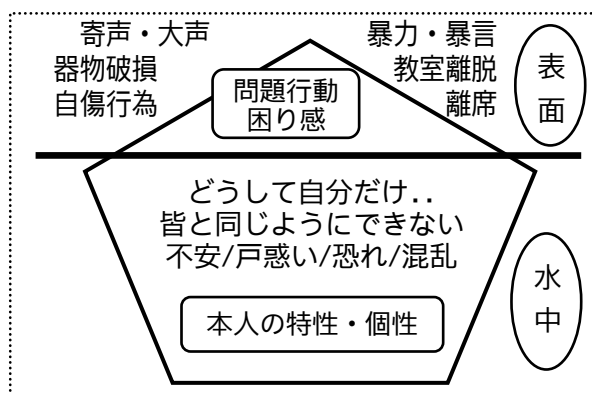
郡山市立富田東小学校
学校便り No. 9
令和3年10月 1日
文責：校長 齋藤和彦

特別支援教育の考え方について 「その対象者は全ての児童生徒です」

特別支援教育という、何か特殊な感じを受けますが、その対象者は学校の全ての児童生徒です。例えば、視力が悪ければメガネやコンタクトを使います。耳が聞こえにくければ補聴器を使います。メガネや補聴器を使う人は特殊な人ではありません。

今、子どもが困っている状態から、生活しやすく・学びやすいようにするのが特別支援教育です。（下の図をご覧ください）

一般に「氷山理論」と言われるモデルです。



個々の障がいに対応するって.. とても大変なことだけど..

学校の指導(支援)不足? 震災の影響...? 家庭環境のせい? 発達障がいの増加? それとも..何か他に原因が? 近年、低学年期の学習や集団不適應等による困り感を抱える児童の傾向は、本校だけでなく、市内各校でも同様の状況(現状)。(発達障がい検査や特支学級/学校への相談件数は常に満杯の状況)

～ある..若い 臨床発達心理士をめざす学生さんが言いました..
相談者十数人を抱える..かけだしの嘱託見習いさんでしたが、共感できる..お話でした。

「(～略～) 視覚化された予定表は、本来なら写真や絵でわかるといいけど、少なくとも...色分けされていて、
“なんだか今日の予定が楽しいものに見える!” (その子に対する先生の心) ってだけでもいいね。
動くたびに何か言われ、ひたすら浴びせかけられる言語指示は、全然わからない中国語で激しくまくし上げられるのと同じ、あるいはそれ以上のストレスと苦痛だよ。そうやって、大人の都合で追い込まれて..
みんなチックや行動障がいになって..。あーあ..ってなる。(この状態で相談に来る親さんがいっぱいだよ。)」
「(～略～) 個々の障がいに対応するって、とても大変なことだけど、ときに一緒に困るって大事だと思う。
悩んで困ってみないとわからない。 ひざすりむいたときの痛さがわからないと、そこに絆創膏貼ってあげるとき、触れ方わからないでしょう? そーっと痛くないように貼ってあげることできない..って思うんだ。」

研修努力は必要です..が、すぐに専門的・的確な実践をすぐに..は、なかなか難しいのです。
でも、できることがある。「一緒に困ってみる(悩みがわかる)」寄り添うってこと
～いつまでも..困っていたり、寄り添っているだけでは、素人なのですが..
誰よりも..困っているのは“こども”本人です。ここを忘れず、できる限りの力を尽くします。
※ 裏面:「ひなちゃん 一人で行けたね」参照



学校の中で、子どもが寄声や大声を発することや教室を飛び出すことは度々見られ、問題行動として捉えられます。しかし、大声を出して先生に注意されたい子ども、教室を飛び出して先生に叱られたい子どもはいません。

大声なんか出したいくないけど、出してしまうのは、子どもの心のSOSです。

その背景には、不安や戸惑いがある、やむにやまれずの行動です。

一般に言われる「問題行動」を起こす子どもの背景を探り、支援策を講ずるには、保護者と学校との連携が必要です。

【本当に怖いのは二次障がいです】

問題行動を注意され叱られ続けると、子どもの自己肯定感は下がり、「どうせ僕なんか..」「私ばかり叱られる..」と、二次障がいに陥り、無気力になり、さらに問題行動は複雑化します。そこから自己肯定感を回復させるには長い時間がかかります。そうなる前に適切な支援を行いたいのです。

※ここまで..日和田小学校 伊藤孝行校長先生の資料を引用させていただきました。

お子さんのことで、ご心配なことがございましたら、お気軽に学校へご相談ください。